

---

# 蝉と夏の奇跡

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蝉と夏の奇跡

### 【Nコード】

N9890U

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

彼女の命は残り一週間と宣告された。俺はできる限りのことを、精一杯考えた。

それは火が照りつける暑い真夏の出来事だった。

彼女の命は、

今日羽化したばかりのあの木に止まっているセミと同じだそう。

そう、一週間。

たった、一週間。

「そんな、深刻な顔しないでよ？」

彼女は微笑んでいた。

僕も心配させまいと笑ってごまかす。

「まだまだ！一週間も神様はくれたんだもん楽しも？ね？」

その笑顔が俺を不安へと導く。

「……………そうだな」

帰り道ふと思う。

これしか時間がないんだ……………何か買ってあげよう。

遠くに小さく見える大きな病院を細目で眺める。

……………いかん、悲観的はやめよう。

と、俺は歩きだした。

プレゼント？

改めて思ったが何を渡せばいい？

付き合って直ぐあいつは病にかかった。

だから実質、何も渡したことはない。

こう、改めて考えるとなんか、恥ずかしいな……………。

結局、小心者の俺は何も買わずに三日も過ぎた。

モノは渡さず、思い出という《モノ》を二人で語った。  
今の俺にはそれしか出来ない。  
できる限りのことをすれば、それで……………。

セミの声が一段と大きくなるに連れ、

俺らの会話は段々と減っていくばかりだった。

「みつき……………」

「……………え？」

「……………あ、いや、なんでもねえ」

「そう」

明日で残り二日。

……………ま、まあ確実にその日に死ぬってわけじゃねえもんな……………。

「……………」

「……………え？」

俺の声はセミの声にかき消され、みつきには届かなかった。

「<sup>かつと</sup>克人くん？何て言ったの？」

「……………、ごめん、なんでもないよ」

みつきはなんとも言わず、ただ微笑むだけだった。

次の日。

彼女の容態は悪化。

面接も本当に短い時間だけ許可された。

「……………あのセミ、全く鳴かなくなったね」

「？ ああ」

「あの子と一緒に、私も死ぬんだよね」

「……………」

物騒なこと言うなよ。

死んでいい人間なんて、居ねえんだぜ……………？

俺は握った拳に変な汗をかいているのが分かった。

「・・・・・・・・ごめんね、なんか」

「お前が謝ることじゃ・・・・・・・・」  
ないだろ・・・・・・・・？

そしてあの日から

一週間後。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

病室に鳴り響く「ピー」と言う不吉な音。

俺は終始、彼女の手を握っていた。

セミは、大きな木の下に、落ちたのだ。

そう、彼女は・・・・・・・・。

「・・・・・・・・・・・・・・・・っふ」

「！」

息の吐く音。

握っていた手の指先が微かにびくりと動く。

心肺測定器が「ピッピッ・・・・・・・・」と再び稼働する。

「ば、馬鹿な！？今確実に・・・・・・・・」

「・・・・・・・・み、みつ、き？」

「・・・・・・・・か・・・・・・・・っ・・・・・・・・と・・・・・・・・」

「みつきっつ！」

「・・・・・・・・・・克人・・・・・・・・くん？」

みつきは無理に身体を起こす。

「・・・・・・・・・・奇跡だ」

一同はそう、言った。

みつきの体には病気のかけらも何も残ってはしなかった。  
きつと、神様が、奇跡を起こしてくれたんだろ。

「もう、克人くん絶対奇跡起こったって思ってるでしょ」

「！」

図星をつかれた。

「奇跡はね、起きるものじゃなくって、起こすもの・・・・・・・・」  
と言い終える前に足元に目を落とした。

一輪の小さな花が咲き誇っていた。

「ここって・・・・・・・・」

そつだ、あの“蝉”が落ちた場所。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

俺らは顔を見合わせた。

もしかすると、奇跡を起こしてくれたのは、神様なんかじゃねえ  
この小さな命なんじゃねえのかなって、俺は思った。

（後書き）

勿論、

今の目標は誰も殺さない恋愛を作ることですから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9890u/>

---

蝉と夏の奇跡

2011年10月3日11時16分発行